

4 戯曲からの3つの歌

I

ジョン・バーリーコーン、農夫、そして敵のバラッド

わたしが畑を鋤いていたとき
返されて腹を空かせた敵が
わたしの鋤に身を寄せて叫んだ
「わたしの仲間のジョン・バーリーコーンを見ましたか？」

わたしは答えた、「金色のあご髭の男かい？ 5
夜も朝も絶えず何か呟いているのだろうか？
風が立つと立ち上がって踊るよね？」
敵は言った、「その人がわたしのジョン・バーリーコーン。」

ある日、男たちが恐ろしげなナイフを持ち出した 10
(ああ、思い出すだけでも辛いわ!)
みんなで祈っている金髪のジョンを打ち倒した。
そしてわたしの牧師のジョン・バーリーコーンを殺した。

それからジョンを木の荷車に乗せた、
彼から夏の栄光がすっかり刈り取られてしまった、
そして脱穀する男たちが棒や竿で砕いた 15
バーリーコーンの輝く骨を。

粉屋の石がぐるぐる回った、
男たちは嘲りながら石の下でジョンを粉々にし、
粉屋が百もの袋に詰めた
バーリーコーンの打ち砕かれた誇りもろともに。 20

パン屋がやって来てジョンの塵を買った。
気がふれた男だった、断言してよい。
男は炎が渦巻くような怒りにまかせて
わたしの英雄を焼いた、ジョン・バーリーコーンを。

酒造りが来てジョンの心臓を盗んだ。 25
ああ、わたしなど生まれなかったらよかった！
男は盗んだ心臓を溢れんばかりに大樽に詰めた
そしてわたしの愛するジョン・バーリーコーンを溺死させた。

そしていまわたしは畦道を旅している、
暗く空腹で足は擦り切れている、 30
でもこの冬の世界では
わたしの踊るバーリーコーンを見たものはいない。」

わたしは袋からバノックパンを取り出した。
ああ、彼女の空っぽの口がどれほど大きく開いたことか！
わたしは言った、「あなたの飢えの日々は終わったのだ、 35
ここに行方不明のあなたのバーリーコーンがいるのだよ。」

わたしはポケットから小瓶を取り出し、
角盃にウイスキーを注いだ。
わたしは言った、「あなたの哀しみを一時忘れるのです、ここに 40
バーリーコーンの愉快的な血があるのだよ。」

彼女は食べ、飲み、笑い、踊った。
そしてわたしと一緒に家へ戻った。
古い藁のベッドの口ウソクの灯の下で
彼女はもうバーリーコーンを求めて泣かなかった。

II

ティンカーの歌

「それでもあなたは黒い畝を歩いて行くのですか
今夜、あなたは歌いながら?.....」
「その薄いエールを飲ませてくれないか、
お前と一緒に行くよ。」

みんなは彼を黒い畝の近くで見かけた 5
おおかみ星の薄明りの下。
彼はゆっくりとしたステップで踊り、
彼が持つフィドルの陰は濃かった。

黒い畝には三人の男が立っていた
そして一人は灰色の服を着ていた。 10
この世の人間はあの布を織ったことがない
昼の穏やかな光の下。

黒い畝に三人の男が立っていた
そして一人は緑色の服を着ていた。 15
三人はフィドラーの手を引いていた
そこで彼の姿は見えなくなった。

黒い畝に三人の男が立っていた
そして一人は黄色の服を着ていた。 20
三人はフィドラーを戸口から中へ引き入れた
中へは鳥一羽入ることができないだろう。

三人はフィドラーの手に金の盃を持たせた、
舌には妖精のパンを。
そこで彼は百年留まった、
自身と法を超える歌が。 25

「それでもあなたは黒い畝を歩いて行くのですか
こんな陰鬱な夜、ひとりで?.....」
「ぼくはキリスト教徒たちと眠りたい
教会墓地の石の下。」

III

フィドラーの歌

あらしは去りましたよ、ご婦人。
海の音はもう聞こえません。
あなたは何を待っているのですか、ご婦人?
金髪の彼は溺れました。

潮は静かに流れていますよ、ご婦人、 5
囲いに入る羊のように。
あなたは何を待っているのですか、ご婦人?
キスをする彼の唇は冷たいのです。

(川畑彰訳)